

国際ロータリー第2560地区
ガバナーテーマ

「基本を学び、地域と共に」

高田ロータリー今年の
スローガン

「ロータリーを識り、
奉仕を実践し友情を深めよう」



人類に
奉仕する
ロータリー

2016～2017年度

国際ロータリー会長 ジョンF.ジャーム
2560地区ガバナー 田中 政春
高田ロータリー会長 本山 秀樹
幹事 中田 正

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号
TEL (025) 526-3288 FAX (025) 526-3534
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp
例会場：デュオ・セレッソ TEL (025) 526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員
加藤 卓也 伴 長門 斉藤 光雄 佐藤 芳徳

第33回例会 ■ 3月10日(金)

No.33

会長挨拶 ● 本山 秀樹



私事ですが2泊3日で市内の病院に検査入院をしました。2日間病院の外にも出られずゆっくりと過ごすことは出来たのですが病院食には参りました。味気ない食事でもこれを健康食と考えれば、いかに私達は日頃贅沢な飽食の世界に生きていることかと思いました。

さて、来週3月13日は「世界ローターアクトの日」です。最初のローターアクトクラブは、アメリカノースカロライナ州で1968年3月13日に結成されました。そして、1993年にRI理事会は3月13日を含む1週間を「世界ローターアクト週間」としました。ローターアクトは「ロータリー」(Rotary)と「行動」(Action)を結びつけたもので、時は移り変わってもこの名称の意義は変わらないと思います。高田ローターアクトクラブは、昨年45周年を祝いました。この週間を機に、私たち提唱クラブとしてローターアクトの活動に積極的に参加し、ローターアクトを識って頂きたいと思えます。ローターアクターは、ロータリー家族の最も活動的な構成員です。30歳定年制ということもあり、会員数が増えていません。会員増強も含めより一層のご理解とご支援をお願いします。

出席報告

出席率 98.18%

メイクアップ

佐藤憲二君 (3/11 第1回会員増強会議)

委員会報告

出席・ニコニコBOX委員会

渡邊 隆君——昨日、看護大学卒業式無事終了、

8年間の任期終了です。皆様に感謝!!!

高橋孫左衛門君——「羽鳥慎一のモーニングバード」で、当店が紹介されました。皆様方のご支援も宜しくお願い致します。

斉藤光雄君——昨年6月に卓話の機会を頂いた次女が4月から母校の新潟県立看護大学に就職することになりました。渡邊学長お世話になります。

親睦委員会——3月の会員お誕生日 各お祝い

幹事報告

配布物：週報No.32・新幹線及び他鉄道時間表
回覧物：川崎日香渥日本画展チラシ

卓話

いのちに向き合うことについて考える

新潟県立看護大学 母性看護学・助産学 助教 高塚 麻由 様



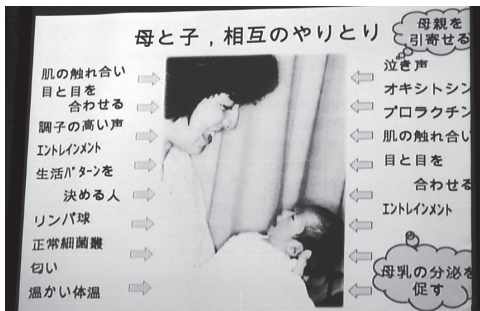
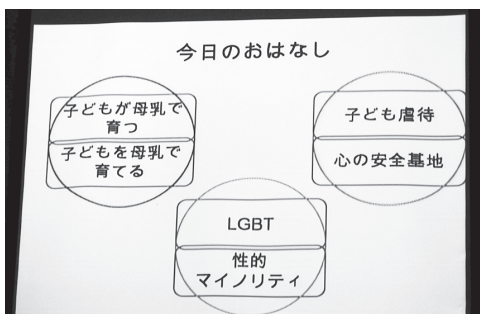
子どもや高齢者等へのいじめや虐待、モラハラやパワハラといったハラスメント、両者の間に生じる力の差からこのような問題が日常的に起こっています。力の問題、それは強い立場から弱い立場にある者への不適切なパワーとコントロールにより生じるもので、他者から明らかに見えるものもあれば、見えにくいものもあります。今回は力の問題を『いのちと向き合う』ことから考えたいと思います。取り上げるのは、“母乳育児”、“子ども虐待”、そして“LGBT”です。

母乳育児は、母親にとり自分にしかできないことを成し遂げたという貴重な子育ての体験であると同時に母親としての自己を確立していく経験となります。また子どもにとっては母の胸に抱かれながら得る満足により母親への愛着を深め、生きていく上で重要な心の安定を獲得してゆきます。このように母乳育児という営みは、母と子のいのちの始まりといえます。一方、子ども虐待は、子ども時代に重要な愛情豊かな眼差しや手厚いケアを得ることが難しいばかりか生存すら危うい状況もあり、育ちの過程を脅かされた子どもは人生において解決しきれない影響を受けることとなります。誰もが子ども時代に愛情深いケアを受け育つことは、力の強弱ない安定した社会を導くものと考えます。

最後に同性愛者や性別を変更する者等を表現す

るLGBTについてです。同性パートナーに関する条例が制定されたこともあり、以前より認知されていますが、まだまだ性的規範からの逸脱者という見方があるのではないのでしょうか。多数派である異性愛者によって少数派とみなされている当事者にとっては、周囲からの理解が得られない苦悩に加えいじめや性暴力といった被害にあうこともあります。

看護においては、暴力による健康被害の問題にフォレンジック看護学という新しい分野で取り組んでいます。いのちを脅かす力の問題の解決は容易にはいきませんが、ひとりひとりが倫理的な感受性を高め、問題解決に取り組むことが必要です。



ロータリーの友 3月号より

P18～22

心は共に 東日本大震災 Fukushima、JAPAN (抜粋)

Allison Kwesell 写真家・ロータリー平和フェロー

2011年9月、私は初めて福島に行きました。～11月、私は新地町に行き、驚かされました。そこは私がそれまでに訪れたどこの町よりも美しい町であっただけでなく、人々は心を開いて笑顔で私を迎えてくれたのです。

福島の復興はとても遅く、また、物理的な復興によって、福島の傷がいえるとも思えません。

放射線の問題、除染の問題、正しい情報が共有されていないこと、噂と烙印は、人々の理性や心、感情といった目に見えないものと同様に、復興が進んでいません。復興が遅れているにもかかわらず、福島はその傷を癒しています。

町が復興し、人々が再び自分たちの家を持つときがきました。しかし、コミュニティーの必要性は残っています。今こそ、日本の政府は立ち上がり、日本の原子力発電所の事故による被害からの恐怖に終止符を打つべきです。

今、それは福島の住民の手の中にあります。私が学んだこと、それは日本のコミュニティーの絆は、人生を意味あるものにし、生き残り、癒し、榮えていくためには不可欠なものであるということです。